

# 幼 兒 の 好 む 色

東京女子高等師範學校  
附屬幼稚園主事

安 井 哲

一、幼兒は一般に如何なる種類の色を好むか、又其好むところの色は、彼等の年齢、男女、或は其

家庭の生活状態にも何等かの關係を有するものなるかを調査せんと欲し、モンテッソリー女史の色

彩感覺の練習用色絲卷の中、赤青黃綠紫橙の六色を撰び、是等に依りて左の如き實驗を行ひたり。

第一、八等級の濃度を有する赤青黃綠紫橙の六色に就き、其最も濃き者、即ち第一等の濃度を有する者を各幼兒に示して、好むところの色を指示せしむ。

第二、第四等の濃度を有する同じ六色に就きて各兒の好むところの色を指示せしむ。

第三、第七等の濃度を有する同じ六色に就きて各兒の好むところの色を指示せしむ。

以上の實驗に依りて得たる結果は次の表に示すが如し。

淡		中		濃		濃度		組	第一組 (生活程度の比較的高き者)	第二組 (生活程度の比較的低き者)
女	男	女	男	女	男	男 女	色 類			
2	II	1	I	2	III		赤	第一組 (六歳前後)		
1	III	3	III	2	IV		紫			
4	I	4	III	2	II		青			
5	V	4	IV	3	III		綠			
3	II	3	II	1	I		黃			
5	IV	2	IV	4	V		橙	第二組 (六歳前後)		
1	III	2	II	1	III		赤			
3	I	2	III	2	III		紫			
1	II	3	II	2	I		青			
2	III	2	I	2	II		綠			
2	II	1	I	3	III		黃			
2	III	1	III	2	IV		橙			

淡		中		濃		組	淡		中		濃		組
女	男	女	男	女	男		女	男	女	男	女	男	
2	II	2	I	1	III	三の組 (四歳前後)	1	I	1	III	1	IV	二の組 (五歳前後)
3	III	3	II	3	I		2	V	3	IV	2	IV	
3	III	5	I	4	IV		2	III	2	II	2	I	
4	IV	3	III	3	II		2	III	2	III	3	III	
4	III	4	II	4	II		3	II	2	IV	4	II	
1	I	1	I	2	IV		2	IV	4	I	4	IV	
1	II	1	II	2	IV	三の組 (四歳前後)	1	IV	1	III	1	IV	二の組 (五歳前後)
2	II	2	II	1	III		2	I	3	I	2	I	
1	II	3	I	2	III		2	III	3	II	4	II	
2	III	2	I	2	I		3	III	2	III	4	III	
2	I	2	III	3	II		3	II	2	II	4	III	
1	II	3	II	2	IV		3	II	2	III	3	III	

四歳前後	五歳前後	六歳前後	一部(男兒)	二部(男兒)
赤中、紫濃、青中、橙中、淡	赤淡、青濃、橙中、	赤中、青淡、黃濃、		紫淡、青濃、綠中、黃中、
青中、綠濃、中黃淡、	紫濃、中、淡、			

右の表に就きて幼兒と其最も好む色との關係を觀察する時は次の如し。

備考一、表中の濃、中、淡は各色の濃度を示すものにして、「濃」は最も濃きもの、即ち八等級中第一等の濃度、「中」は第四等、「淡」は第七等の濃度を示すものなり。

二、表中の羅馬數字は、與へられたる色の中より同じ色を選択したる各部各組に於ける男兒の總數を其多きに従ひて順序立てたる者、即ち其順位を示すものにして、算用數字は、同じく女兒の場合に於ける順位を示すものなり。

	一部(女兒)	二部(女兒)
六歳前後	赤中紫淡、黃濃、	赤濃、淡、青淡、黃中、橙中、
五歳前後	赤濃、中、淡、	赤濃、中、淡、
四歳前後	赤濃、橙中、淡、	赤中淡、紫濃、青淡、橙淡、

右の表に依りて再び次の事實を観察することを得べし。

第一、男女と其最も好む色との關係に就いて觀察するに、男兒は各年齢及第一部第二部を通じて、殆ど共通に好むところの色は青にして、女兒は共通に赤を好む。

第二、年齢の異なる幼兒と其最も好む色との關係に就ては、明なる差異を認むること難し。

第三、生活程度の異なる家庭に育ちたる幼兒と其最も好む色との關係に就ては、

一、生活程度の比較的高き家庭に育ちたる男兒は、生活程度の比較的低下家庭に育ちたる女兒

と殆ど同種類の色、即ち概して赤、青、黃及び其系統の色を好むが如し。

二、生活程度の比較的低下家庭に育ちたる男兒は、概して青黃及び其系統の色を好むが如し。

### ○お断り

本號には「新保育期に當りて」なる研究問題に對して諸幼稚園から戴いた回答記事が豫想外に豊富でありました爲めに、忽ち編輯者の目算に狂ひを生せしめて、記事輻輳といふ盛況を呈するに至りました。しかしそれが爲めに菅原先生の「色彩の心理」を特に本號に於て割愛せざるの止むなきに立ち至りましたことを先生並びに讀者諸氏に深くお詫びいたします。尙岸邊先生の「沙市幼稚園保育趣旨及び細目」は來月號に於て完結すべく、その細目は我國保育界の實際的方面に他山の石として好箇の參考資料を供するであります。(記者)